

# 令和5年度いわき市病院事業報告書

## 1 概 況

### (1) 総括事項

ア 当センターは、28の診療科を有し、病床数700床により、福島県浜通り地方の高度急性期医療を担う中核病院として地域住民の健康保持に必要な医療を提供しております。

イ 年間総延患者数は、入院が176,737人、外来が222,026人であり、前年度と比較し、入院は4,906人の増加、外来は2,188人の増加となりました。入院は、主に外科、血液内科の患者が増加し、外来は、主に小児内科、形成外科の患者が増加しました。

ウ 収益的収支は、収入が前年度に比べ3.3%減の246億9,742万1,476円、支出が前年度に比べ2.2%増の238億2,345万4,618円となり、8億7,396万6,858円の当年度純利益を計上することとなりました。

(ア) 主な収益的収入としては、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い社会経済活動の正常化が進むなかで、紹介件数や救急車の受け入れ件数が増加するなど入院・外来いずれも患者数が増加したことや、新たに急性期充実体制加算を取得するなど診療単価も増加したことで、医業収益が前年度に比べ6.5%増の199億1,882万285円となりました。

なお、患者一人一日当たりの収入は、入院が84,320円、外来が20,119円で、前年度に比べ、入院は3,576円の増、外来は544円の増となりました。

医業収益は、コロナ禍前の水準を超え、新病院開院以降で最高益となりましたが、患者数はコロナ禍前まで回復していないため、財務基盤の強化には、患者をいかに確保していくかが大きなポイントとなってくるものと思われまます。

一方、医業外収益は、新型コロナウイルス感染症の類型変更に伴う補助制度の見直しで、病床確保料が大きく減額となるなど、前年度に比べ30.7%減の45億9,335万1,279円となりました。

(イ) 主な収益的支出としては、患者数の増による手術件数の増に伴う材料費の増や、病院情報システムの更新に伴う資産減耗費の増などにより、医業費用が前年度に比べ2.2%増の225億178万3,496円となりました。

エ 資本的収支は、医療機器の導入や、その財源となる企業債の借入れに伴い、収入が前年度に比べ120.1%増の42億1,647万7,816円、支出が前年度に比べ71.2%増の53億8,254万304円となりました。

医療機器は、医療業務の向上を図るため、病院情報システムを更新(16億8,684万5,600円)したほか、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や医用画像管理システムなど82品目を14億292万2,620円で購入しました。

オ 引き続き、地域の中核病院として、地域完結型医療の確立を目指し、地域の医療機関との相互役割分担を推進するとともに、救急医療や周産期医療といった通常医療の充実と新興感染症等の感染拡大に備えた取組みなどを進めながら、良質な医療の提供と患者サービスの充実に努め、将来にわたり持続可能な病院経営の確立に努めて参ります。